

次世代への歴史・文化バトンプロジェクト

『バウムクーヘンづくりから学ぶ広島歴史』

3月1日（土） 広島市南区似島（にのしま）

本事業は、小・中学生を含む家族を対象に似島で実施しました。

似島は日清戦争以降に検疫所等、軍の施設が置かれ、原子爆弾が投下された際には多くの被爆者が運び込まれました。現在でも遺構が多数残っており、参加者はガイドのもと、それらの遺構を巡るとともに慰霊の広場を訪れました。

また、ユーハイム似島歓迎交流センターでバウムクーヘンづくりに取り組みました。似島には第一次世界大戦に関わり、ドイツ人俘虜収容所が設けられました。1919年（大正8年）3月、広島県物産陳列館（現原爆ドーム）で開催された、似島独逸俘虜技術工芸品展では、バウムクーヘンが販売され、非常に人気を博したようです。

本事業を通して、みんなで歴史について学び、平和について考える時間を共有することができました。

（広島ユネスコ協会青壮年対象事業推進プロジェクト）

